

## (7) 中筋中学校

学 校 長 山脇 克仁  
校内研究代表者 宮本 教子

### 1. 研究主題

「課題意識を持ち、主体的・対話的に学び合う生徒の育成」  
～見方・考え方を働かせた授業づくり～

### 2. 主題設定の理由

昨年度は、「週1回のチーム会を中心に「見方・考え方」を働かせた授業づくりについての取組を行った。その結果、各教科において、めあて・課題の明確化が図られるようになり、生徒の主体的な活動の場が増えるなど、一定の成果が見られた。また、昨年度は中筋小学校と連携して系統あるカリキュラムづくりを行い、合同校内研修を通じて一定の教科領域に関する小中職員同士の共通理解が深めることができた。

しかし、チーム会で進めてきた、見方・考え方を働かせた授業づくりの取組は、めあて・課題の明確化にはつながったが、「どのような」見方・考え方を「どうやって」課題解決に活用し表現させるかを今後も検討していく必要がある。また、本年度本校は統合に向けた取組として、統合校へのスムーズな連携を図っていく必要性や全国的に進んできているICT活用も課題となっている。

そこで今年度はICT活用等も図りながら見方・考え方を働かせた授業づくりの取組を中心に授業改善の取組を行うこととし、研究主題、研究仮説を以下の通り設定した。

#### ・研究仮説

思考場面や観察場面において、各教科の特質や学年に応じた見方・考え方の視点を示せば、自ら考え、課題解決に取り組む子どもを育てることができるであろう。

### 3. 研究の進め方と方法

#### (1) 研究方法

##### ①授業改善の取組

- ・研究仮説に基づく授業改善の取組
- ・Student Teacher (ST) の活用
- ・チーム会（教科間連携）による授業研究及び新学習指導要領の研修
- ・講師招聘による研究授業（各教科担当）
- ・タブレット等ICTを効果的に活用した授業改善
- ・拠点校等の視察やオンライン研修等による研修と共有

##### ②小学校からの系統立てたカリキュラムづくり、授業づくりの取組

- ・小中合同校内研修（二部会）における新学習指導要領の研修および教科・生活支援の研究と実践
- ・ICT活用の研修
- ・小中授業参観交流における教科の研究（各学期）

#### (2) 研究の実施体制

- ・チーム会 週1回（教科間連携による新学習指導要領を踏まえた授業づくり）
- ・二部会 月1回（学力向上部会 生活支援部会）
- ・小中合同校内研修 学期2回（教科部会 生活部会）
- ・外に出たの学びを継続的に行い、伝達講習で全員に共有する。

## 4. 研究の内容

### (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善

#### ① チーム会の取組

チーム会を週時程(月曜日)に位置づけ、毎週1回のチーム会を実施した。授業改善のポイントとして「見方・考え方」「ICT活用」「ST活用」の3点を重視し、学習指導要領解説の読み合わせをもとに、生徒につけたい力の共通理解を図った。「見方・考え方」に関しては、改善プランや研究授業等の指導案検討を行い、授業でつけたい力が明確かどうか、ねらいに迫れているかどうかを図り、「どのような見方考え方を、どう働かせるのか」をチームで協議し、授業改善に役立てられるようにした。

また、全体研修では、他校の研究授業の報告会を行い、「見方・考え方」や単元構想づくりについて研修を深めた。

「ICT活用」に関しては、今年度はタブレット機器が導入されたことも踏まえて、効果的な活用の在り方をチームで協議した。研究授業ではタブレットを活用した授業を実施し、効果的な活用法について提案することができた。5教科や総合ではすべてクラスルームを活用した授業に取り組むことができ、タブレットを活用する授業づくりが定着した。

#### ② ST(Student Teacher:教科担当生徒)を活用した主体的・対話的な授業力の向上

STの効果的な活用や見る視点・考える視点を示す授業などを共通の視点としてチームで授業づくりを行い、主に5教科を中心に、主体的・対話的な深い学びの授業に向けた授業改善を行った。今年度は、次年度の統合を意識し、積極的なSTの活用を推進した取組を行えなかったが、教科や単元によっては生徒自身でめあての作成や進行を行う授業を行うことができた。

### (2) 小中連携の取組

#### ① ICT活用についての研修

本年度より導入されたクロムブックを効果的に活用した授業づくりについて、動画視聴や研修を行った。年度当初、クロムブックの活用法の基礎について小中合同研修を行い、小中で協力してICTの効果的な活用法について年間を通じて情報共有を行った。小中で共有ドライブを作成し、活用法についての共有を行い、互いの授業づくりに活かした。

#### ② 生活習慣づくり仲間づくりの取組

小中の課題である、児童生徒のゲーム時間やスマートフォンなどの「メディアとの付き合い方」について、情報共有を図り、講師を招いた講演を実施した。また、小学校との運動会実施前には仲間づくりのためのエンカウンターを実施し、交流を図った。



#### 【STの活動】

##### 授業全体の進行

- ① 生徒による前時の振り返り
- ② 生徒によるめあて、まとめづくり等

##### 話し合いの進行

- ③ 生徒による意見の整理・検討
- ④ 生徒による意見のまとめ等

#### 1 小中合同校内研の取組

##### 「ICTの活用についての研修と実践交流」



## 5. 今年度の成果と課題

### (1) 成果

○今年度は生徒一台端末の配布がされ、生徒も教員もICT機器に慣れ効果的に使っていけるようにするにはどうすればいいのか手探り状態であった。そんな中、小中で連携して効果的な活用について協議出来たことは有意義であった。小中合同校内研修ではICTの活用法についての動画研修や情報共有を定期的に行うことで、小中校種の違いがある中で、互いの授業に取り入れられる気づきをもつことができた。



・情報活用に関する  
動画研修  
・活用実践共有  
・共有ドライブ

兵庫県たつの市立  
新宮小学校 石堂先生  
を迎えて



「個別最適な学び」についての研修会

- チーム会を定期的に行い、教科間連携の取組を通して、教科を越えたねらいやつけたい力の理解が図られ、ねらいの明確化につながった。他教科の授業を参観する視点を持つことで、自分の教科の授業づくりに役立てることができた。また、ICT機器を活用した授業づくりについても、チームで協議することでより効果的な活用法を考えることができた。
- STの活用では、前時の振り返りなどにおいて、生徒自身で授業を進行していく形が定着し、授業を自分たちの力で進め、自ら学ぶ意識を持たせることができた。そのことが、授業以外での体育的活動やコンクール等において、人任せにせず自ら進んで何事にも取り組みチャレンジしようという姿勢につながっていると思われる。
- 県学力定着状況調査（12月実施）の自校採点結果では、おおむね目標値を達成している。

### (2) 課題

#### ◆授業づくりについて

研究授業での協議及び、アンケート類では、生徒の思考力を高めるための振り返りとまとめの時間確保が課題として出された。

深い思考、対話につながる課題提示と授業展開に課題が多くみられた。生徒が深い思考をし、より意義のある対話にするための授業を展開する。

#### ◆学力定着状況調査結果

深い思考を図る問題を解く際に、問われたことに適切に回答する問題の正答率が、5教科を通じて課題があった。問われていることを深く読み取り、的確に書く表現の指導が必要である。

◆統合校へ編入した際、生徒がギャップを抱えないよう生活面・授業面での統合校へのスムーズな引継ぎのための取組を行っていく。